

東京民医連

東日本大震災 ニュース

2011年3月17日

No.21

発行：東京民医連事務局

電話：03-5978-2741

FAX：03-5978-2865

メール：

soumu@tokyominiren.gr.jp

本日午後4時、東京都に都知事選など一斉地方選挙延期を申し入れ

現在、現在、ガソリンや生活用品の供給不足、計画停電、福島原発問題などへの懸念と不安が急速に広がっています。こうした時期だからこそ、被災地救援、復興に全力をあげるとともに、都民、全国民の安心安全の生活を確保することを最優先すべきです。この立場から、東京都に4月実施予定の都知事選挙をはじめ一斉地方選挙の延期を申し入れました。なお、国会では、選挙延期の特例法案が審議中。

現地支援報告 城南医療福祉協会 支援チーム現地報告

(3月17日秋山医師発) 現在現地で医療支援診療所・クリニックは宮城厚生協会だけで歯科を除き8ヶ所もあります。すべての状況を本部もつかみきれていません。ただ、長町付属クリニックの被害は大きく建物そのものが倒壊の恐れがある状況で近づくこともできないようです。他の診療所は診療の制限の中やっているところ、薬の処方だけ出しているところなどまちまちです。通常の診療にならないのはライフラインが不十分なのと、内部のカルテ棚などの店頭などの整理が追いついていない状況です。若林クリニックに支援に入った人に聞きました「数十人の薬のみの外来のみ、内部の片付けで終わりました、引越し屋のようでした」写真は16日夜の全体会議と坂総合病院から北に徒歩10分ほどのさくらヶ丘の商店街の様子です。



健友会【3月16日】7時間30分かけ坂総合病院に到着 (鈴木総務部長発)

9時30分9時30分出発し、17時に宮城民医連の坂総合病院(宮城厚生協会 宮城県塩釜市)に到着。受入態勢は十分機能している。宿泊は建替え前の旧病院でしっかりベッドで寝れそう。街は津波の被害を受けた部分と受けなかった部分で全く様相が違う。被害は悲惨な状況だ。

ほくと医療生協：本日、フジテレビが「被災地支援」取材にきました。

東都協議会：本日11時に第二次支援チームが出発。マイクロバスと2トントラックの支援体制。トラックには支援物資を満載。支援募金にも取り組みました。

「計画停電」は影響大！各施設は対応に大奮闘中です。

○透析クリニック(羽村診療所・すながわ相互診療所)：停電の時間帯が一定しないので、透析の計画を立てられずに困っている。診療所には非常電源はない。あっても軽油が確保できない。日によって早朝と夕方に停電することもあり、2クルールの透析の時間がとれない。通電していない時間帯は、次の透析の準備もできない。○訪問看護ステーション(各地)：在宅患者の療養に苦慮している。在宅酸素療法と在宅人工呼吸器や喀痰吸引機の電源が確保するのが大変。一般自家発電装置を確保して対応しているが、発電機や軽油の確保に苦慮している。○病院(立川相互病院・あきしま相互病院)：職員の出勤が困難。地方の遠隔地からの出勤で電車が運行しないため、大変困難。病院の近くに宿舎を用意し泊り込んでもらっている。こういった諸費用は診療報酬にも盛り込まれておらず、全部医療機関もちで、赤字拡大の原因になる。